

発生予察情報

特殊報第2号

平成23年10月27日
秋田県病害虫防除所

スイカ炭腐病の発生について

1. 病害虫名：スイカ炭腐病 *Macrophomina phaseolina* (Tassi) Goid.

2. 発生作物：スイカ（ユウガオ台木）

3. 発生の経過

平成23年8月、県内のスイカほ場において、収穫間際の株が急速に萎凋する症状がみられた（図-1）。発病株を引き抜き根部を確認したところ、黒変症状を呈する株が多数観察された。これらの株を秋田県農林水産技術センター農業試験場で同定したところ、スイカ炭腐病であることが判明した。

本病は、平成13年に長野県で初めて発生が報告され、平成15年に山形県で発生が確認されている。本県での発生確認は今回が初めてである。

4. 病徴

（1）地上部の症状は、収穫間際に急性萎凋症状として現れることが多く、発病が甚だしい場合は枯死に至る。

（2）根部は細根が脱落し、主根の表皮が黒炭色に変色する（図-2）。この変色した部位を観察すると、直径が0.1mm程度で黒色の微小菌核が多数形成されているのが確認できる（図-3）。

（3）スイカに萎凋症状を起こし、根に黒点を形成する病害として、本病の他にホモプシス根腐病と黒点根腐病があるが、ホモプシス根腐病は黒点が角張り、チェッカーフラッグ模様に見え、黒点根腐病は黒点の直径が0.3～0.5mmと、本病に比べて大きいことから識別できる。

5. 発生生態

（1）本病原菌の生育適温は35℃付近である。

（2）菌核によって土壌伝染する。菌核は土壌中で2～4年間生存して伝染源となり、連作により菌密度が高まる。

（3）本病原菌による被害はスイカ、ユウガオ、メロン、サツマイモ、マメ科作物（ダイズ、インゲンマメ、アズキ、ササゲ等）、キクで報告されている。

6. 防除対策

（1）発病根は抜き取り、ほ場外で埋却等の処分をする。

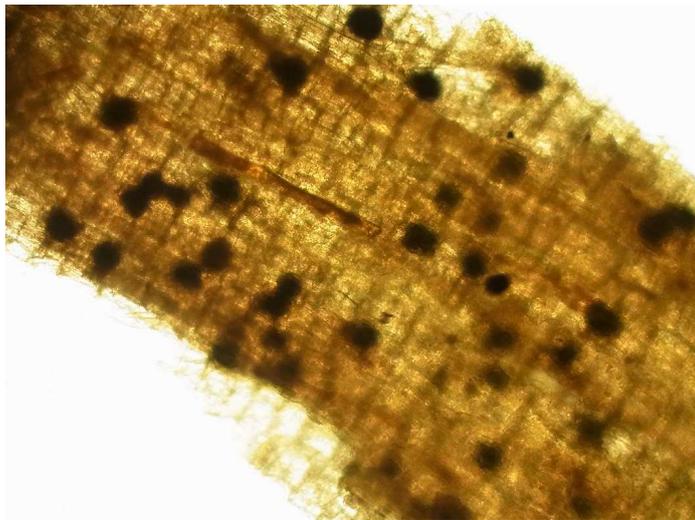
（2）発生ほ場では、本病原菌の非寄主作物との輪作体系をとる。



図－1 発生ほ場の状況



図－2 被害根



図－3 微小菌核

【問い合わせ先】

秋 田 県 病 害 虫 防 除 所	0 1 8 (8 6 0) 3 4 2 1
秋 田 県 農 林 水 産 技 術 セ ン タ ー 農 業 試 験 場	0 1 8 (8 8 1) 3 3 2 6
掲 載 H P	http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/